

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

裸の王様を生み出す組織の政治性 三枝 匡 (ミスミグループ本社名誉会長)

1. 「組織の政治性」について考えたい。政治性の強い人は狡猾（こうかつ）である。経営者と真正面から議論することを避け、曖昧なまま妥協して引き下がりながら、仲間内では反対意見を垂れ流す。「面従腹背」は対立を避けて自分を守る手法だから、人間関係を長持ちさせる。そのステルス（隠密）性のおかげで、その人は昇進を続けたり、役員にまで上がってきたりすることもある。
2. そうなると、至近距離にいる部下に裏があるにもかかわらず、知らぬは経営者ばかりなりという状態になる。その状態が高じると、経営者は正しい情報や意見を聞けず、裸の王様のような状態になる。
3. 社内の政治性を放っておけば、自分が足をすくわれかねない。かといって対抗して自分も政治性を発揮すれば、同じ穴の貉（むじな）になってしまう。経営者はそんなジレンマを抱いている。政治性が跋扈（ばっこ）する会社が、同時に戦略的成長企業であることはない。だからこそ戦略志向の企業文化をつくりたいなら、経営者は平時から組織にそれなりの「規範」を入れ込んでいく必要がある。

(参考:「日経ビジネス」2022年2月28日号)

人事・労務について

オフィスはどう変化していくのか

稲水 伸行 (東京大学大学院准教授)

1. 在宅では、自分で仕事の管理をしながら働く必要があるため、仕事に対する自律性の意識が高くなり、「やらされ感」が少なくなって、仕事に対するポジティブな感覚が生まれたという良い面があります。一方で、テレワークの頻度が高過ぎると、メンタルや健康上の問題が発生するという悪い面もあります。特にコミュニケーションの面では、雑談が減って、ちょっとした会話でつながっていた人間関係がうまくつくれなくなったという側面もあります。
2. これからのオフィスは、社員同士のコミュニケーションやコラボレーションをする場所、というように機能特化するかもしれません。オフィスで対面する人とオンラインで参加する人がいる、ハイブリッド型のオフィスになる可能性もあります。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2022年3月12日号)

経営者のための危機管理

ENEOS和歌山製油所の閉鎖

(和歌山県有田市の生産の9割消失)

1. 和歌山県有田市。人口3万人弱の地方都市が揺れている。市を支えてきた基幹産業の拠点であるENEOSホールディングスの和歌山製油所が、2023年10月をメドに閉鎖されることが決まったからだ。和歌山製油所の20年の製造品出荷額は約4700億円だった。県工業統計によると、有田市全体では5178億円だ。つまり、和歌山製油所は有田市の製造品出荷額の実に90%超を占めている。
2. 雇用の面から見ても、製油所の存在は際立つ。ENEOSによると、製油所で働くENEOSと協力会社の社員は計1300人。有田市の人口の5%程度だ。ただ、周辺の公共インフラに勤務する人のほか、従業員とその家族が利用する飲食店、スーパーなどを含めると、その経済波及効果は計り知れない。有田市は特産品のミカンの栽培などの産業はあるが、実際は製油所がこの町の経済のすべてである。

(参考:「週刊東洋経済」2022年3月26日号)

古典に学ぶ

自己の財産増は激烈する

(解説) しかるに競馬競漕となると命を懸けても構わぬという程になる。自己の財産を増すについてもこれと同様で、激烈なる競争の念を起し、彼よりも我に財産の多からんことを欲する。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)